

## 『学び合う』社会科授業づくり

### ～課題と評価をみんなで考えて、模擬授業をしよう～

☆ 本分科会の目標：参加者全員が『学び合い』の課題設定と評価の仕方について、より深く理解することができる。

☆ 内容：小学校六年生歴史の単元を題材に、実際に課題設定と評価の仕方を作ってみる ⇒ 交流する ⇒ 模擬授業してみる

#### ① 課題設定と評価のポイント（『学び合いの手引書』より）

※評価で一番大事なことは、目標と一対一対応することです

- ・ 子どもたちが理解できること
- ・ 子どもたちが評価できること
- ・ 教師が本当に評価していること

～シンプルな課題でよい みんなができることを本気で求めること～

#### ②課題を作ってみよう！

#### ② 評価の仕方を考えよう！

☆参考☆

課題の作り方の例(東京書籍 P94~95 杉田玄白と伊能忠敬のを学習する内容)

課題例① 教科書p94~95をみんながわかるようになる。

⇒これで学び合いができるクラスが理想。だが、経験の浅いクラスだと、子ども達が何をすればいいのか困る。

課題例② 次のことが説明できるようになる

- ・ 蘭学とは何か
- ・ 杉田玄白は何をした人か
- ・ 「解体新書」とは何か
- ・ P94の2つの解剖図の違いを説明できる
- ・ 伊能忠敬は何をした人か
- ・ 蘭学は、社会にどのような影響を与えたのか

⇒子どもたちは何をどう学べばよいかははっきりしているので、しっかりと学び合う。

課題例③ 次のことが説明できるようになる。

- ・ 「解体新書」を作った杉田玄白のすごさを3つ以上説明できる。
- ・ 伊能忠敬が作った日本地図のすごさを3つ以上説明できる。

⇒人物に焦点を当てた学び合いをさせたい場合、こういう課題を設定すればよい。

**ポイント：課題はシンプルでよい、でも皆ができることを本気で求める**

※評価について

- ① みんなができたかどうか、そのために努力したかを毎回確認する。
- ② 本当にわかったかどうかもちまめに確認しておくのもよい。(EX 小テスト・ミニ論文)
- ③ 単元テストで全員が8割以上とることをめざし、結果を伝える。(例 100点が○人、90点が△人、80点が□人、80点以下が※人)
- ④ その後、どうすれば達成できるのかをみんなで考える。